

## 生き方を見つめて

白いしつくいの壁と木の床が、温かな雰囲気を醸し出す。さいたま市南区の「ヘルシーカフェのり」。店の奥にある約二十六平方㍍の「広場」で、新井純子さんは、赤ちゃん連れの若い母親たちひ、楽しそうにおしゃべりをしていた。

### ・著 ・グラフィ ・ティ

その隣のテーブルでは、ともに生後八ヶ月の長男を連れた新井里奈さん(三〇)と山内亜希さん(三〇)が、デザートのケーキを楽しむ。市の育儿学級で出会ったといふ二人は、「ゆっくりじ飯を食べて話すのは初めて」「外で食事がしたかった」とうれしそうに話した。

のうは二〇〇九年十一月、地域社

会の「だまり場」などと定義される「コミュニティーカフェ」として開店。出資者が社員となり、その総意に基づいて意思決定などをを行う合同

「講師をやりたい」という人が現れたり、人を紹介してくれたり。人の力を活用して、頼っています」

### 縁結び

▼「コミニティーカフェについて、民間団体の長寿社会文化協会(東京)は、人や情報が交差する自由な空間」などと説明。約千五百カ所をリスト化しているという。HPでは各地のカフェの情報も掲載しているほか、書籍「コミニティ・カフェをつくろう!」などを販売。「長寿社会文化協会」で検索。

▼新井さんは昨年度の「のら広場」の運営に、さいたま市のコミュニティビジネスへの助成金を活用。本年度は製薬会社MSDの支援を受けている。自治体の男女共同参画センターなどでは女性向けの起業家セミナー・や学習プログラムなども行っており、新井さんは「ぜひ活用を」と呼びかけている。

## コミュニティーカフェで子育て支援

共同代表 新井純子さん(53)



来店した子育て中のママたちと談笑する新井純子さん=さいたま市南区で

気づいたのは、十年ほど前。子育て支援グループで、母親向け学習会企画・運営し始めたのだ。自身もかつて「子育てにつまずいた」母親だった。夫(五四)は転勤が多く、知らない土地で乳幼児を育てるのは大変だった。悩んでいたころ、地域の公民館でセルフカウンセリング講座を受講。そこで学びから「子どもをどう育てたいか」じやない。私がどんな大人を生きていいかが大切なんだ」と気づいた。

その後もさまざまな講座を受講したほか、公民館の非常勤職員として働いたり、仲間と一緒に女性の生活意識の調査研究をしたり。子育て支援をする中で、多くの母親たちが多様な能力を持つていることに気づき、コミュニティーカフェ構想が生まれた。

広場の運営は現在、個人や企業などさまざまな協力者に支えられている。「地域が元気になるには、いろんな人が力を出し合つことが必要」と新井さん。パッチワークのようつながりは、これからも広がっていきそうだ。(竹上順子)